

女川町まちづくり ワーキンググループ 瓦版

第 14 号

女川町まちづくりワーキンググループの内容をお知らせします

第 14 回女川町まちづくりワーキンググループが 開催されました！

第 13 回 WG に引き続き、今回も各グループでテーマを設定し、提言としてのとりまとめをイメージしながら具体的な検討を行いました。テーマにもとづいた具体的な検討は今回が最後でしたが、グループワークの終了時間ギリギリまで活発な議論がなされました。

次回第 15 回 WG で、グループワークは最後になります。提言書のまとめと、報告会での発表に向けた最終確認を行います。

第 14 回 ワーキンググループ 開催概要

- 日時：
平成 25 年 2 月 14 日(木)
18:45～20:45
- 場所： 町役場 会議室
- 参加者： 20 名

第 14 回 WG のグループワークは、前回に引き続き、第 12 回 WG でグループ毎に設定したテーマにもとづき、それぞれ検討を行いました。

商業・観光グループと街並み（低地）グループは、商業施設の配置について、前回と同様、2グループ合同で検討しました。

また今回は、皆さんから頂いた意見書をもとに修正した提言書（素案）について、全体で修正内容の確認も行いました。

今年度ワーキンググループの最終回は、報告会です。次回第 15 回 WG では、最後のグループワークとして、報告会に向けた発表準備を行います。

● 当日のプログラム ●

- 1 前回の振り返り等
 - ・提言書(素案)の修正内容について
 - ・駅周辺デザイン検討会の開催について
- 2 グループワーク
- 3 まとめ



● 次回ワーキンググループ開催予定 ●

第16回ワーキンググループ(報告会)を、以下の日程で開催します。

- 場 所： 女川町総合体育館 2階柔道場
- 時 間： 18:45～20:45
- 開催日： 第 16 回 平成 25 年 3 月 21 日 (木)

ご多忙の折恐縮ですが、ご参加下さいますようお願い申し上げます。

今年度最後の
ワーキンググループです。
奮ってご参加下さい。



● 各グループの検討結果 ●

各グループの主な検討内容は、以下のとおりです。

商業・観光&街並み（低地）

検討テーマ

- 商業施設の配置について

主な検討内容

- 【駅・ゆぼっぼ】
- ゆぼっぼの宴会場を活用
- 【公共施設ゾーン】
- 中心部には賑わいのためのホールや学校が必要
- 【飲食店ゾーン】
- 修学旅行者をターゲットにする
- スーパーや薬局などは必要
- 宿泊施設ゾーンと隣接させる
- 自由に使える協同テラスなどがあると良い
- 【宿泊施設ゾーン】
- まちを見ながら来ることができる。
- 高台に逃げられる
- 【公園ゾーン】
- 宿泊者向け駐車場（大型車対応）
- 駅から人を誘導する
- 公園の仕掛けづくりが重要
- 決まったことをするのではなく、オープンな空間
- 【その他】
- 管理運営手法を考えることも必要
- 駅前に町の土地を集め、自由に使えるようにしたい
- 税制上の減免などの具体策を考える必要有り
- 自己再建する人とチャレンジする人のすみ分けが必要
- 各商店会での話し合いも必要
- シャッター商店街とならない仕組みが必要
- どこまで町がコントロールするかは検討が必要
- 工業ゾーンは水産加工ゾーンと隣接させる

公園

検討テーマ

- 親水公園について

主な検討内容

- 【コンセプト】
- 静か（子どもが安心して遊べる）
- 川に近づける ● 見晴らしがよい
- 【ターゲット】
- 町内の子ども
- 【対象エリア】
- 女川上流部：水量が一定に確保される
- 【やりたいこと、ほしいもの】
- 【川の中、川沿い】
- 子どもが泳げる程度の流れと深さ（水中生物観察等）
- 散歩、ウォーキング、バードウォッチング
- あゆ、やまめ、さけが上ってこれる場所
- 【平場】
- 畑、菜園 ● 芋煮会 ● たこあげ ● 遊具 ● 駐車場
- 【必要な施設・機能】
- 川に近づけるような整備（水遊び等ができる）
- トイレ、井戸と手押しポンプ ● バーベキュー
- アスレチック遊具 ● 遊歩道と桜 ● 駐車場
- 果樹（柿、栗、いちじく等）を園内の植栽とする
- 女川の歴史を伝える表示
- 住民を中心とした「公園を守る会」
- エリア外：くぬぎの木、ドッグラン
- 【その他（必要なこと）】
- 鹿対策（柵、音）
- 女川の原種を守るルール（計画）
- 山岳ネイチャーガイドや市民ボランティアとの協力
- 人の目による相互監視

街並み（高台）

検討テーマ

- 宮ヶ崎地区モデル案について

主な検討内容

- 【コンセプト】
- 多世代が幸せに暮らせる ● 人々の記憶に残る
- 女川の人に戻ってくる ● 季節感が感じられる
- 将来に誇れる ● 次の世代に豊かな自然を残す
- 【住宅地づくりのフレーム】
- 維持管理し続けられる等身大の住宅地
- 段階的な整備
- 【行政と居住者との役割分担】
- 【行政がやること】
- コミュニティが醸成されやすい住宅地になるよう配慮しながら、道路、公園、街路樹、動線を計画する
- いろんな世代が入居できるよう工夫する
- 景観形成の手本となるような整備をする。
- 【住民がやること】
- 街並みやガイドラインを居住者でつくる
- 【全体方針】
- 住宅地の中心に憩える場（公園、コモン等）をつくる
- 住宅地内にフットパスをつくる
- 住宅地のエッジにシンボル緑地を設ける
- 住宅地の景観形成や維持管理に関するガイドラインをつくる
- 各高台と中心部をリンクするバスを運行する
- 津波発生時には低地からの避難場所にする



整備イメージの検討結果

第14回ワーキンググループのまとめ

各グループで具体的な検討を行う最終回として、皆さん真剣に取り組んでいました。

前回の第13回WG、そして今回の第14回WGで検討した結果をもとに、第15回WGでは提言として整理する内容を確認し、検討が足りない部分を補い、報告会での発表準備を行います。